

(案)

堺市北区区民評議会

答申書

令和3年 月

目 次

I. 答申に当たって	1
II. 諮問事項について	2
1. 北区まちづくりビジョンの改定について	2
(1) 諮問内容	
(2) 審議の経過	
(3) 審議の結果	
2. 北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて	6
(1) 諮問内容	
(2) 北区の現状と課題	
(3) 審議の経過	
(4) 審議の結果	
III. 答申の結び	13
(参考)	
● 堺市北区区民評議会委員名簿	15
● 堺市北区区民評議会 会議等の開催状況	16

I. 答申に当たって

堺市北区区民評議会（以下、本評議会という。）は、北区における施策、事業等に係る総合的な計画の策定及び改定に関する事項、北区民の生活に密接に関係のある課題を解決するための施策、事業などの方向性及び方針に関する事項、北区域内における地域振興に係る補助金の交付対象となる事業選定に関する事項など、これら北区の課題解決に向けた施策及び事業の事項について調査審議等を行うために設置された審議会である。

平成 27 年度の設置以来、「区域まちづくりビジョンの見直しについて」、「北区の魅力発信と賑わいづくりについて」、「子育て世代が住みやすい地域づくりについて」「多世代交流・協生のまちづくりについて」等の北区域の課題解決に資する取組や北区の向かうべき方向性等に関する諮問についての審議を行い、それぞれを答申としてとりまとめてきた。

令和元年度からは、委員構成を一新した第 3 期の本評議会がスタートし、「北区まちづくりビジョンの改定について」及び「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」の諮問が市長からなされた。これらについて、これまでに 6 回の会議を開催するなど 2 年間にわたる審議を行ってきたところである。

今般、審議の経過や取組の方向性など、諮問事項についての審議結果をとりまとめたので、ここに答申する。

II. 諮問事項について

1. 北区まちづくりビジョンの改定について

(1) 諮問内容

北区まちづくりビジョンは、堺市マスタープランの下で、北区の10年後の将来像を設定し、それを実現するための基本方針や具体的な取組を示す区の個別計画で、令和2年度をもって計画期間満了（平成23～令和2年度）となる。

北区では、このビジョンに基づき、安全・安心の確保、歴史・文化など区の魅力の発信、地域コミュニティの醸成など、区の強みを伸ばすとともに、区域の課題解決に資する取組を区民と協働で進めてきた。

一方、高齢者数の増加、減少傾向にある出生者数、単独世帯の増加、地域社会の担い手不足による地域コミュニティ機能の低下や人と人とのつながりの希薄化に加え、新金岡町の集合住宅の建替えが進むなど、北区の状況は著しく変化している。また、2016年のビジョンの一部改定以降、大阪府北部地震や西日本豪雨などの自然災害が立て続けに発生していることから、安全・安心の確保と地域コミュニティ機能の重要性は一層高まっているところである。

このような状況を踏まえ、より一層、区域のまちづくりに関する施策等を総合的かつ計画的に推進できるように、新たなビジョンへの改定に際し、地域活動における経験や関心、活動の課題、これから取組んでいきたい活動等に対する区民の意識を把握するアンケート調査を実施した上で、より地域の実情にあったものとするため、北区まちづくりビジョンの改定について、諮問がなされた。

(2) 審議の経過

①令和元年度

審議を始めるにあたり、企画総務課より現行の「北区まちづくりビジョン」の内容及び進捗状況の説明があった。また、あわせて、新たなビジョンを地域の実情に合ったものとするため、無作為抽出した18歳以上の北区民（4,000人）に対し北区への満足度、北区の魅力や課題、魅力向上や課題解決に対する区役所や区民による今後の取組などを調査する「北区まちづくりアンケート調査票（案）」の提示が企画総務課よりあり、アンケート（案）に対する意見をまとめた。

令和2年3月2日に開催を予定していた令和元年度第3回会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。そのため、北区まちづくりアンケート調査の結果に対して、書面にて各委員から日ごろの活動や生活等での経験や自身の研究内容から感じたことについて意見を聴取した。

②令和2年度

第1回会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため書面回付で行なった。令和元年度に行った書面での各委員からの意見やアンケート調査結果、北区を取り巻く社会情勢の変化、北区の特性や課題などを踏まえて、企画総務課より「北区まちビジョン（仮称・概要）（案）」が提示され、ビジョンの構成内容である「将来像」「戦略」「基本方針」等に対する意見をまとめた。

第2回会議では、企画総務課より「北区みんなのまちビジョン（素案）」が提示され、北区の魅力の打ち出し、区民協働に対する区役所の姿勢や役割についての表現の工夫、区民がビジョンを理解しやすい例示を盛り込む等の意見が出された。

第3回会議では、企画総務課より「北区みんなのまちビジョン（案）」が提示され、区民が当事者性を持つための工夫、ページレイアウトのメリハリの工夫や策定後のビジョンの発信方法等について意見が出された。

「北区まちづくりビジョンの改定」に関する審議の経過を踏まえ、委員意見を答申としてまとめた。

(3) 審議の結果

①「たのしい」をキーワードとしていく

これからの北区のまちづくりを区民が一つの思いで進めていく必要があることから、将来像には区民の共感を得られるものが良く、「たのしい」を掲げることは前向きでふさわしいと思われ、さらに「たのしい」ことは行動のきっかけともなるため、ビジョンの展開においても、行動を促すためのキーワードとして具体的に構成していくと良いと考える。

○主な意見

- ・「これをしてみたい」という思いは、人を楽しくさせてくれる。「不満」が「楽しい」になると、自発的な取組が始まり、プロジェクトの持続性も生まれると思う。子どもから高齢者、障害者、外国人、区内に住んでいる方々、一人ひとりが幸せになるような将来像が望ましいと思う。お金をかけなくても、「今日はたのしかったね」「この街は良いところだね」と毎日を過ごせるような街、人を作ることが大切だと思う。
- ・多くの世代にとって、北区に住むことが「安心」につながることはもちろん、そこに心の豊かさを与える「たのしい」を組み込むのはとても良い。また、「たのしい」というキーワードは前向きで分かりやすいものである。
- ・「たのしい」ことを既に実践されている方々もおられると思う。「たのしい」ことを続け、さらに新しい「たのしい」ことを始めるといったことが表現できればと思う。
- ・世の中に楽しいことはたくさんあり、楽しいだけで人は動かないが、絶対条件ではある。
- ・作物を作るということ、それから、季節の物を食していくということ、そういった

季節を感じることで喜び、そして作ったことで食したいとか、いろんなことが楽しみにもつながる。

- ・北区全体でどうしたら楽しいのかということをもう少し具体的にイメージをする必要がある。
- ・日々の生活の中で困っていることを解決するため、もしくは、解決の糸口を見つけるため、楽しいが充実していくということにつながっていくようなことも戦略の展開に入る。
- ・ビジョンについて、それぞれ一人ひとりがこの街をよくしたい、もっと楽しく住みやすくしたいという形に積極的に訴えてはどうかと思う。区民の人が感じられるような、そういうものになったら良い。

②北区の魅力を様々な角度から伝える

北区には、北区まちづくりアンケート結果上位にみられるような交通の利便性、公園緑地、歴史的資源等の魅力がある。しかし、北区に残る農地やため池をはじめ、区内を流れる河川などの自然資源については、まだまだ認知度が高いとは言えない。北区の魅力について、様々な角度から区民が実感できるような表現や形で示していくことは、北区に愛着を持ち、北区をより良くし北区で暮らしていこうという思いを得る上で大切であると考えます。

○主な意見

- ・北区の魅力が現状は交通のアクセスや自然、歴史という北区が持っているものだけではなく、将来的に住民の取組など、新たに生まれた魅力が入ると良いと思う。
- ・北区は、歴史的資産や地場産業に恵まれていると思うが、ほかからの転入者も多く、そういった強みを知らない人が多い。
- ・北区の魅力について、公園をはじめとする緑、自然などの豊かさ、となっているので「など」ではなく、そのあたりを少し深めたうえでまとめると良い。
- ・北区の魅力としては交通の利便性と公園緑地等の自然があげられる。特に公園は金岡公園と大泉緑地といった大きな公園があり、ウエイトは非常に大きいと考える。これは、北来力（注：北区の特性から定義した北区をより良くする原動力）につながっていくと思うので、このような言葉を入れると良い。

③区民の困り事へのサポートや活動への関わり方を示す

区民が主体的に活動をしていく中で出会う困り事に対し、区役所をはじめ様々な主体がサポートし合えるような姿勢や取組を示すこと、また、区民の活動への関わり方について具体的に示すことが区民協働を実効性のあるものとする観点から大切であると考えます。

○主な意見

- ・住民の活動力が最大限に引き出せるようなしくみづくり、しかけづくりを行政がどう下支えするのかを戦略として出せば、住民もより活動をがんばろうと思うようになる。
- ・住民といっしょに行政も動いて、ともに汗をかく心構えだということを態度で示す

ことが、住民との信頼関係構築に最も有効的である。

- 区民の活動に対して区役所はどういったサポートができるのか、という視点での記述が必要。
- 戦略や方針を立てることは区役所が出していると思うが、それに沿って区民がどういことができるのか、ということも内容に入れながら、区役所がサポートできる内容を記したほうが良い。
- 区民が何か活動していく中で、何らかの困り事や問題、ニーズが発生する。区民の困り事などを区役所が受け入れ、協力していく姿勢や役割を盛り込む方が戦略の展開とも合う。
- 今回は「たのしい」と明言して、いろいろ工夫していこうということなので、ゆるやかに助け合えるような、どんな人でも負担が少なくできるような工夫を盛り込むことも一つの方法。
- ビジョンを理解して実践するのは区民、地域活動団体であり、それを支援するのが区役所というところをかみ砕いて書き、このビジョンを読んだ人が、自分ができることを思ってもらいやすくすると良い。

④区民が当事者性を持てるものとする

区民協働への考え方やアプローチの方法について記載しても、区民それぞれが自分事として捉えていかないと、行動に結びつかない。「みなさん」や「みんなのもの」と表現すると、自分とは関係ないと無関心になる人が多いため、一人ひとりの区民が当事者性を持てるビジョンとしていかなければならないと考える。

○主な意見

- 実際に区民に公表する際は、デザイン性や分かりやすい言葉は必要。
- 「ビジョンの攻略ブック」のような感じで読み進めていくことができれば、「では、自分たちならこういうことできるよね」といったことを考えながら読める。
- 「区民」「地域活動団体」「区役所」の三者がそれぞれどのように働きかけていくのかというイメージ図があれば、分かりやすくなる。
- 「みんな」のものと言った瞬間に、誰のものでもなく、誰も無関心なものになってしまう。もう一度、一人称で、「あなたが」なのか、「私が」なのかということが伝えられるようになれば良い。
- 「みなさん」と投げかけると、読み手側は、「自分とは関係ない」と思う人が多い。「あなた」と書くことで、「読んでいる私が」と思ってもらえる。「あなたが新たな一歩を踏み出す」、「あなたができることは何か」と、表記を少し変えると、より自分も、と当事者性を持ってもらいやすくなる。

2. 北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて

(1) 諮問内容

北区では全世帯の約 65%がマンションや団地といった共同住宅に住んでおり、また、転出入者も多く、半数近い住民が自治会に未加入で地域のつながりが希薄化している。

そのような中で、古くからの住民と近年転入してきた住民とのつながり、交流の醸成を考慮しながら、区民一人ひとりが災害に備え、災害発生時にとるべき行動を学習し、在宅避難の推奨等、避難所運営の負担軽減につながる自助の取組を進めていく必要がある。

一方、北区では各校区に自主防災組織が設立されており、防災訓練等の防災活動を行っているが、参加者が固定化し、参加者数も減少傾向にある。

また、高齢化により発災時に中心となって避難所設営等が行える人材が不足しており、新たな防災リーダーの養成が課題となっている。

いつどのような状況で発生するかわからない災害に、公助が届くまでの間、地域があらゆる状況に組織的に柔軟に対応することができる共助の実践力を身につけるとともに、災害対応マニュアルを策定する等、地域としての総合的な防災力の向上を図る必要がある。

以上のような状況を踏まえ、北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて、諮問がなされた。

(2) 北区の現状と課題

①校区・人口

北区は小学校区が 15 校区あり、それぞれの校区に自治連合会が存在している。北区全体の人口は堺市 7 区の中で最も多く、そのうち生産年齢人口（15～64 歳）の割合は 7 区中最も高く、年少人口（0～14 歳）の割合も西区に次いで 2 番目に高い。校区ごとの人口は、最も多い校区はもっとも少ない校区の 4 倍以上である。

②地域形態

地域形態としては地域のつながりが強い旧村の形態を残す地域や、昭和 40 年代にニュータウンとして開発された集合住宅が中心の地域、最近新たに高層マンション等の建設が進み人口が増加している地域、大阪メトロ沿線の利便性のよさから集合住宅と戸建住宅とが混在する地域など様々である。

③北区の特性

北区は、0 歳から 19 歳までの人口が他区より多く、子どもが多いといえる。また他の区に比べて集合住宅の世帯の割合も多いという特性がある。

④北区の課題

平成 30 年 9 月 4 日には台風 21 号が堺市に最接近し、北区でも大規模な停電が発生し復旧にかなりの時間を要した。この間、停電により団地やマンションなどの集合住宅ではエレベーターの停止、給水設備の作動停止による断水等が発生し、また暴風による家屋・構造物の損壊や樹木の倒木などの甚大な被害があったことも記憶に新しいところである。

また区内の各地域においては、防災活動についてそれぞれ取組がすすめられているが、消火訓練、救急救命訓練、応急救助訓練など、従来の防災訓練だけでは、毎年同じ人しか参加せず、新たな参加者や若い世代の参加者が少ないという悩みがある。

子どもが多い北区では、小学生や中学生は次世代の防災活動の担い手として期待できるため、子どもの頃から防災意識を育む必要がある。また、集合住宅における防災活動では、戸建住宅とは違った集合住宅特有の取組が重要になってくると考える。

これらを踏まえて、北区のすべての住民が災害への意識を高め、災害時に自らの命を守る行動がとれるようになることをめざし、防災に関心をもつ契機となる取組を、どのように講じていくかが課題である。

(3) 審議の経過

①令和元年度

審議を始めるにあたり、最初に堺市における災害時の対応について企画総務課より説明があった。

堺市内では地域防災計画に基づき 108 カ所の風水害時指定避難所や 161 カ所の地震災害時指定避難場所が設定されており、それぞれの避難所では、地域の自主防災組織と避難所対応職員との協力による運営体制が構築されていることや、北区内では 24 か所の指定緊急避難場所及び指定避難場所があり、大泉緑地から金岡公園一帯と大阪府立大学周辺が広域避難地となっているなどの説明を受けた。

次に、自治推進課より、北区における各地域の防災の取組や、区が実施している取組の紹介があった。

○校区の防災の取組

- ・五箇荘校区「BOSAI カーニバル」
- ・五箇荘東校区「かえっこ&自主防災フェスタ」
- ・金岡校区「金岡校区自主防災訓練」
- ・金岡南校区「金岡南防災フェア」等

○北区が実施している取組

- ・マンション防災講座
- ・中学生を対象とした防災講座 等

これらの説明や報告事例を基に、各委員の感想や委員自身の体験なども含めて情報の共有を図った。また、諮問事項にある「北区の特性に応じた」ということを重視し、議論をより発展的なものとするため、区内での取組について堺市立八下中学校の中学生を対象とした防災講座と、北花田グランアベニュー防災会の活動の視察を行った。

○中学生を対象とした防災講座（堺市立八下中学校）

対象は1～3年生約200名。

講座内容は東日本大震災の映像視聴や南海トラフ巨大地震についての講義、防災クイズ、避難所の様子と課題についての講義や簡易な間接照明の作成、ダンボールや運動用マット等を利用した居住空間を作成するグループワークなどであった。講座を受けた中学生からは、地震の映像に衝撃を受けた、自然災害についての認識が深まった、ダンボールを使ったベッドや椅子の組立などを通して避難所生活について学んだ、今回の講座で学んだ事を家族や友人に教えていこうと思う、等の感想があった。



防災クイズの様子



段ボールを利用した居住空間の作成の様子

○北花田グランアベニュー防災会

北区内で先進的なマンション防災に取り組んでいる「北花田グランアベニュー防災会」の活動を視察した。

まず防災会の取組の説明を受け、次いで防災備品や防災倉庫、受水槽等の見学を行い、その後防災会の方々との質疑応答や意見交換を行った。

当該マンションは、6棟700世帯すべてが防災会に加入しており、全世帯を「情報設備」「救出救護」「消火」「給水給食」「警備」の5班に割振り、「班分けステッカー」を各戸玄関に貼付している。防災会では、防災活動の習得、防災諸情報の提供、防災活動マニュアルの作成、防災資機材の購入管理、防災訓練の計画・実施、コミュニティ形成活動など様々な活動を実施している。また、地域の避難所は新浅香山小学校であるが、学校の収容人数の限度を勘案し、マンション内での在宅避難を想定しているとのことであった。



質疑応答・意見交換の様子



防災設備見学の様子



防災倉庫見学の様子

令和2年3月2日に開催を予定していた令和元年度第3回会議は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。そのため、先に実施した2件の視察を中心に感想や意見と今後の審議の方向性に関する意見を聴取し、とりまとめた。

その結果、八下中学校の防災訓練視察の感想や意見からは、災害時における中学生の力や避難所や家庭で担う役割についての注目や関心が多くあった。

北花田グランアベニュー防災会視察の感想や意見からは、在宅避難や垂直避難など集合住宅ならではの防災対策に関しての意見などがあった。

また、審議の方向性については幅広い世代の人たちに防災の意識を啓発し、災害に対する知識や防災訓練等への参加意識を持ってもらえる取組の必要性についての意見があった。

②令和2年度

令和2年度の第1回会議も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため書面回付で行なった。令和元年度に行った書面での各委員からの意見や北区を取り巻く社会情勢の変化、北区の特性や課題などを踏まえて、今後の審議の方向性を、次の3つの項目に決定した。

- 「子どもが参画できる防災の取組」
- 「集合住宅における防災の取組」
- 「北区全体での防災意識の向上のための取組」

以後の審議ではそれぞれの方向性に沿って、委員から数多くの事例の報告やアイデア、意見などが出された。審議の経過を踏まえ、委員意見を答申としてまとめた。

(4) 審議の結果

①子どもが参画できる防災の取組

子どもが多い北区においては、中学生が避難所設営や避難行動で即戦力となることが大いに期待できると考える。そのためには、小学生のころから防災について知識や体験を深め、災害から自らの身を守るため必要な備えや行動について学び、避難行動などを家族で話し合うなどの取組が大切と考える。

文部科学省の学校指導要領でも学年に応じてさまざまな科目で災害や安全について学ぶ機会を設け、「生きる力」を育むことが大切とされており、防災リテラシー(防災に関する知識を習得し活用する能力)を重要視している。八下中学校の中学生を対象にした防災講座も、参加した中学生に対して災害の怖さ、防災活動の大切さなど防災意識を高める取組として有意義であったと考える。

今後の取組として、防災に関心を持ち、自ら関わり率先して活動・実践する「(仮称)ジュニア防災リーダー」の育成や、自身が身に着けた知識を自らの年代に近い子どもたちや大人に伝える仕組みづくりが有効であると考え。また、子どもに対しての防災講座や防災訓

練は、学校内での取組だけでなくこども会の活動や地域のイベントなど、さまざまな機会をとらえて行うことも有効であるとする。

○主な意見

- ・即戦力として中学生の力を考えるのは良いと思う。避難所で人手が足りない時手伝ってもらえる。その際、予備知識があるのとないのとでは避難所運営に差が出てくると思うので中学生に向けた防災講座はとても意義がある。
- ・中学生を即戦力にするために段階的な取組を行うことは大切である。

例

- (ア)「自分で考えて自分で判断できるよう」な実践的な防災講座
- (イ)講座内容を家に持ち帰り、家庭内で防災について一緒に考える
- (ウ)ジュニア防災リーダー(仮)のような主体的に活動する仕組みを作る
- (エ)中学生自らが、地域の小学生や高齢者向けに出前講座を行うことにより、自らも学びの機会となる。
- ・災害時に子どもを守り、また、子どもが災害対応に参画できるような防災の取組は継続的に実施されることが大切である。防災講座などは小学生から継続して行うべきと考える。
- ・八下中学校で実施された防災講座では「避難所にたどりつける」ことを前提としていると思うが、家具の下敷きになって避難所にたどりつけないかも知れない。家具を固定するための方法や、「逃げられる自分」を災害時に確立するためにはどうすべきかなど、子どもにとって今すぐ実践できることを教える講座も重要と考える。
- ・家庭で保護者不在の時に発災した場合や、その時に地域の自主防災組織とどう関わるかを体験することも必要。
- ・子どもたちが災害について学んだ知識や成果を保護者や地域の大人に向けて発表すると効果的と考える。また、小学校高学年から低学年へ、中学生から小学生へ、子ども同士で近い年代の子どもに対して防災について学んだことを教える取組を行うのも効果的と考える。
- ・小、中、高、大と年齢に応じた防災に取組む機会を設けると良い。

例

- (ア)小学生：自分の身を守ることを保護者と一緒に考える
- (イ)中学生：自分の身を守ること、家庭や地域で何ができるかを考える
- (ウ)高校生：自分の身を守ること、家庭や地域で積極的に活動するノウハウを学ぶ
- (エ)大学生：自分の身を守ること、被災地において、災害ボランティアの役割を学ぶ
- ・高校生は大人と子どもの橋渡しの的に子どもの防災リーダー的役割を担ってもらえたらよいと考える。

②「集合住宅における防災の取組」

他の区よりも集合住宅の世帯の割合が多い北区では、災害が発生した場合、避難所での想定される収容人数を考えると、集合住宅の世帯は、避難所へ赴くより、在宅避難や垂直避難など災害の特性や規模等に柔軟に対応した多様な避難形態を検討することが望ましいと考えられる。

北花田グランアベニューの防災会の視察では集合住宅の防災体制について学んだが、災害時の停電によるエレベーターの停止や、トイレや給水設備の停止など集合住宅特有の災害時の課題があることも分かった。

今後の取組として、集合住宅の世帯を対象とした、マンション防災講座の充実などを通して集合住宅住民の防災意識を高めていくことが重要と考える。また、戸建住宅の住民から防災訓練への参加を提案するなどの取組は、集合住宅の住民の防災意識の向上のきっかけとして役立つと考える。

○主な意見

- ・安全で安心して暮らせると思われる集合住宅においても、災害時には思わぬ被害や対応に困ることがある。基本的に集合住宅の防災対策は住民が自主的な防災組織として取り組む必要があると考える。
- ・停電でエレベーターも止まり、水道が使えなくなり、避難所へトイレを借りる事態が起きるなど、ライフラインが止まってしまうことも想定して在宅避難訓練を実施することで、集合住宅の防災対策において何が必要かに気づくと考える。
- ・災害が起きた時に、自分や家族がどんな状況に見舞われるかを具体的に考えるきっかけとなる取組を行い、そこから隣近所との連絡や情報共有などが大切であることに気づいてもらうなど、日ごろからマンション内でのつながりを持つことがまず大切と考える。子どもからお年寄り、障害者の方などの暮らしを見守り支え合うことが必要と考える。
- ・戸建住宅の防災組織と平時から連携をとり、災害時に避難体制で協働できるよう計っておく必要がある。
- ・新耐震基準の集合住宅では在宅避難を基本に防災に取り組むことが大切。
- ・新型コロナウイルス感染症を前提とした避難対策も必要である。
- ・自治会に加入していない集合住宅は地域の防災の取組に参加が少ない状況がある。
- ・集合住宅での自主防災の取組は、共助の働きだけでなく、近隣や地域を結びつける役割を果たすきっかけとなると考える。
- ・戸建住宅の住民が中心となってすでに実施している防災訓練への参加を提案するなどのアプローチは、集合住宅の住民の防災意識の向上のきっかけとなる。

③「北区全体での防災意識の向上のための取組」

若い世帯が防災訓練などに参加が少ない北区では、区民が防災リテラシーを高めることによって北区全体で防災意識を向上させることが重要である。

これまでも北区では自主防災組織の支援として防災講座や、防災情報発信として防災用品の展示などさまざまな防災の取組を行っているが、日常では防災意識はつい忘れられがちである。継続的に防災意識向上につながる取組を行い、「自分のまちは自分で守る」という意識を培うことが大切と考える。

今後の取組として、誰もが気軽に楽しんで参加しやすくなるような仕組みを工夫し、すべての世帯において、防災活動に関心を高めてもらうことから始めることが有効であると考ええる。

また、在宅避難、避難所運営などについては、新型コロナウイルス感染症対策を意識して実施することも大切であると考ええる。

○主な意見

- ・防災意識は、日常的には忘れられがちである。災害時に適切に対応し被害を軽減し、災害後の復旧にも皆で取り組めるよう、継続的に防災意識向上のための取組を行うことが必要である。
- ・災害の直後というタイミングも学びとしては重要と考える。
- ・防災リテラシーを高め、「自分のまちは自分で守る」という自助共助意識を培うことが大切と考える。
- ・すべての世帯が避難計画（マイ・タイムライン）を作成することをめざす取組を実施する。どういう災害が起きた時、いつ、何をして、どこに、どういった安全確保行動をとるのか、どこで避難生活を送るのか、準備物は何か、をあらかじめ世帯で話し合い明文化することも有効であると考ええる。
- ・災害時の対応計画で、要配慮者を意識した時系列の計画を地域で共有することは大切である。
- ・街の中の危険個所や防災設備、歴史的な災害の史跡を確認することは自らの防災意識の向上につながると考える。
- ・防災訓練、防災講座となると、構えてしまい、参加する人も決まった人になりがちなので、多くの人に気軽に参加してもらうために商業施設との共同開催やお祭りやイベントとの合同の催しを考えるのも大切と思う。また、規模の大きい防災イベントにこだわらず「備蓄食品を使ったパーティー」のような、日常に防災要素を取り込んだ形の取組も行うなど、いろんな世代に向けた防災の取組の参加機会をつくることも大切かと考える。
- ・災害は、ケースに応じて区民・自主防災組織・区役所が一体となった取組が必要であり、それを調整する担い手の存在が重要である。

Ⅲ. 答申の結び

令和元年9月に、市長から諮問を受けて以来「北区まちづくりビジョンの改定について」及び「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」の審議を重ねてきた。

(1) 「北区まちづくりビジョンの改定」に関して

様々な意見が出されたが、一つの思いからの意見であったと言える。「北区をより良くしたい」という思いである。それは、区役所のみではどうも成し遂げられないことであり、私たちを含む区民、地域活動団体それぞれが何か変わらないといけないのだということが出発点であったと考える。変わるためには、ビジョンの内容が区民、地域活動団体である「みんな」の心に響き、区民協働へのきっかけとなれば良い。そのため、審議の対象がビジョンの概要から素案、案と進むにつれ、区民の共感を得られるようなもの、区民が実感しやすくなるよう具体的な内容が入ったもの、そして、当事者性を持てるようなものとするべきといった意見となり、それらがビジョンに反映されていった。

今後は、ビジョンが区民に浸透するための効果的な届け方が必要となってくる。世代に応じてマルチかつハイブリッドな手法で届けていただきたい。冊子を読み物として完成させ、広報紙、市ホームページ等に掲載するだけでなく、SNSでビジョンの内容をスポット的に発信したり、ビジョン策定について動画で知らせたりすることで読み物に導く、二次元コードを活用して手軽に読み物にアクセスできるようにすることを考えていくと良い。これらのビジョンを届ける媒体を作る主体も、行政のみがではなく、団体や区民を巻き込み担い手となっていただくことが内容を区民全体に周知し、共有していく上で効果的であると考える。

北区をより良くする原動力「北来力」を区民それぞれが理解し自分のことととらえ、一歩を踏み出し、「たのしい」でつながり、発展していくことを期待する。

(2) 「北区の特性に応じた災害に強いまちづくり」に関して

3つの方向性での審議を深め、各委員からさまざまな意見が呈された。

審議を進めて行く中で、防災リテラシーを高めることが大切であることが分かってきた。また、中学生が防災活動へ参画することや、集合住宅において防災の取組を行う事などが重要なツールであることも分かった。これらのツールをいかに活用するかが災害に強い北区を目指すことにおいて大切であると考えられる。

災害が頻発し、気候が激変している昨今、国の災害対策基本法もほぼ毎年のように改正されており、今後は要配慮者向けの避難計画の策定などが急務になると言われている。災害対策や防災計画を策定するのは行政であるが、実際に避難行動を取るのは区民である。北区の区民が自らの命を守り、地域で連携して災害に対応できるよう防災リテラシーを高め、災害対策に理解を深めてそれを実行できる地域をめざすことこそが、何より重要であるということが審議を重ねる中であらためて確認できた。そして避難所の運営や環境設備の対応などを含め、その実現に向けて北区をはじめとする行政組織は、安全・安心を担保しつつ防災対策に引き続き真剣に取り組む必要があると考える。本評議会でも審議された意見や議論を基にいかにアクションを起こしていくか、それは区役所だけでなく、区民と一緒に考えていか

なければならぬと考える。

また、並行して審議を行った「北区まちづくりビジョンの改定」に関する意見委員においても、当該諮問における議論が反映されており、次期ビジョンでの防災に関する事項の内容充実にもつながったものとする。

この答申を踏まえて、改定された北区まちづくりビジョンがより良い北区の将来を実現するための道標となり、北区の災害に強いまちづくりに関して実効性・有効性の高い施策や事業が実施されることを期待して、この答申の結びとする。

(参 考)

● 堺市北区区民評議会委員名簿（敬称略）

	氏名	役職・肩書
会 長	加我 宏之	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科・教授
副会長	天野 隆次	北区自治連合協議会・会長
委 員	荒川 雅輝	堺高石青年会議所・理事
	今野 良行	公募委員
	奥田 一彦	北区青少年指導員会・会長
	陳代 修平	大阪府立大学 ボランティア・市民活動センター学生 スタッフ
	巽 照子	公募委員
	椿 孝夫	北区校区福祉委員会協議会・会長
	野田 誠子	公募委員
	花咲 宣子	特定非営利活動法人 さかい民間教育保育施設連盟 北区・幼保連携型認定こども園 かなおか保育園 園 長
	羽根 恵子	公募委員
	松川 杏寧	国立研究開発法人防災科学技術研究所 災害過程研究部門 特別研究員

● 堺市北区区民評議会 会議等の開催状況

【令和元年度】

会議等	開催日時	会議の内容
第1回会議	令和元年7月10日(木) 午後3時から	<ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長の選任 ・「堺市北区応募型地域まちづくり支援事業」の意見聴取について ・「堺市北区まちづくり自主活動補助事業」の意見聴取について
第2回会議	令和元年10月17日(水) 午後3時から	<ul style="list-style-type: none"> ・諮問書の交付 ・諮問事項及び諮問理由の説明 ・「北区まちづくりビジョンの改定について」の審議 ・「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」の審議
視察1	令和元年11月18日(月) 午後1時から	<ul style="list-style-type: none"> ・八下中学校1～3年生を対象として開催された「中学生を対象とした防災講座」の視察
視察2	令和元年12月5日(木) 午後1時から	<ul style="list-style-type: none"> ・北花田グランアベニュー防災会の視察
第3回会議	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止	

【令和2年度】

会議等	開催日時	会議の内容
第1回会議 (書面にて開催)	令和2年6月23日(火) ～7月3日(金)	(会議に先立ち諮問内容や視察についての意見・感想等の聴取を行った) ・「北区まちづくりビジョンの改定について」の審議 ・「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」の審議 ・「堺市北区まちづくり自主活動補助事業」の意見聴取について
第2回会議	令和2年8月27日(木) 午前10時から	・「北区まちづくりビジョンの改定について」の審議 ・「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」の審議
第3回会議	令和2年10月21日(水) 午前10時から	・「北区まちづくりビジョンの改定について」の審議 ・「北区の特性に応じた災害に強いまちづくりについて」の審議
第4回会議 (書面にて開催)	令和3年2月24日(水) ～3月2日(火)	・北区区民評議会 答申書(案)についての審議